

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイト等に記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	田中 咲帆	学年(渡航時)	2年
派遣先大学	キール大学		
国・地域	イギリス ヨーロッパ		
派遣期間	2025 年 1 月 ~ 2025 年 5 月		

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
British Cultural Studies	イギリスの文化(British accent や Pub culture 等)について学ぶ。留学生にはおすすめです。
Comparative Education	比較教育学。教育における他国からの政策借用や各国の教育を比較する意義を学ぶ。
Education in Britain: past, present, future	イギリスにおける教育の変遷を学ぶ。Education Act や Warnock Report といった歴史的背景も絡めてイギリスの教育について学習した。
English for Academic Purposes 3	Academic writing の書き方を学ぶ。

留学レポート(1,500 字以上)

[履修について]

渡航前に履修希望表を提出し、時間割が決まるが、時間割クラッシュが起こることもある。(1 semester で 4 つのモジュールを受講できた。) 本格的に講義が始まる前に、チューターの先生と個人面談があったので、特に心配することなく時間割を組むことができた。最初は level 6 の講義を 1 つ履修していたが、内容が専門的で求められるレベルも高かったので変更した。ネイティブでない限りは level 4 or 5 の講義で精一杯になると思う。講義が始まって 1 週間後程度？まではモジュールの変更ができる。交換留学生の場合、基本的にどの分野の講義も幅広く受講できる。

[授業について]

最初とはにかくイギリスのアクセントに慣れるのに苦労した。レポート 100%で評価する講義、グループプレゼン等のグループワークとレポートの両方で評価する講義など様々だが、自分に合った講義をシラバスをよく見て決めることを推奨する。今期の Comparative education, Education in Britain の講義は、たまたまネイティブだけの講義で、最初は自分の英語力に悩むこともあったが、グループワークやチュートリアル(少人数での講義)を通して友達を作ることができたので、楽しく学ぶことができた。English for Academic Purposes 3 (EAP)という講義では、Academic writing の書き方について学習した。イギリス到着後、セメスターが始まる前に簡易的なテストを受けた後に、その結果と共に EAP の受講を勧めるメールが届く。満点でない、ネイティブ以外の学生は基本的に受講をお勧めされる。私は実際に台湾出身の友人と受講したが、非常に満足している。私が受講していたモジュール 4 つとも全て writing の課題があり、それぞれの科目で 1500-2000 words の essay を書いた。日本でも academic writing の書き方を学習していたが、それだけでは 2000 words の essay を書くのは困難だと思う。同じ程度の英語力をもつアジアの交換留学生と悩みを共有でき、先生も丁寧に教えてくれるので、受講することで他のモジュールの最終 essay を書くときに役立つと思う。British Cultural Studies は留学生向けの講義でグループプロジェクトもあるので、友達を作りやすい環境だと思う。

最初はイギリス訛りについていだけで精一杯で、課題も大変ですが、全てをやり切った後は無敵です。講義が終わってからエッセイ提出締切日までが人生で一番大変だった。とてもいい経験をしたと思う。

[寮について]

私は Horwood の洗面台が部屋にある寮(1 人部屋)に住んでいた。私のブロックは 20 人程でキッチンに共有し、10 人程とバスルームを共有していたので、寮内でも友達がたくさんできた。正規生ばかりだったので、積極的に話しかけて、大学について色々教えてもらっていた。Horwood は大学の中心(coop や図書館、カフェ等)に近く、便利だった。週に一回清掃スタッフがきれいに掃除してくれるが、共有スペース(特にキッチン)は一瞬で汚くなる。きれい好きな方なので、衛生管理面で共同生活に苦労した。値段は上がるが、気になる人はホルテンシアのようなスタイルの方(4 人でキッチン、バスルーム共有、部屋はそれぞれ個室)を選ぶべき。

[入寮する際に購入したもの]

布団 Amazon UK でアカウントを作成し、Keele 大学の Student Union にある Amazon locker に届くようにしていた。(ベッドカバーと小さめの枕、ブランケットは日本から持参した) Amazon UK のアカウントを持っていれば、重いお米も頼んで大学内のロッカーに届けることができたので便利だった。

[日本から持参すべきもの]

スポンジ,爪切り,耳かき,歯ブラシ,歯磨き粉,ラップ,緑茶パック,アケエリの粉(風邪ひいたとき辛かったので),日本の調味料,医薬品,お菓子,お箸,トラベルアダプター,モバイルバッテリー,フリーズドライの食べ物できるだけたくさん

[お金・携帯電話]

Sony Bank WALLET のデビットカードを利用していた。日本円が口座に入っていれば、その時のレートで日本円から引き落とされる。(事前に使用する外貨の口座を開く必要がある。ネットで簡単に設定できる。)20 歳を超えるとアプリで外貨購入ができるので、レートが良い時に英ポンドを買い、節約できた。基本的にカードで生活。友達とご飯に行き、別支払いができないときは現金を使った。

スマホは giffgaff の sim カードを事前に購入していた。大学内では wi-fi が使用できるので特に困ったことはなかった。

[この大学へ留学を希望する人へのアドバイス]

どちらかといえば田舎なので、のんびり過ごすことができる。大学にはバス停が数カ所アクセスの良いところがあり、大学からの最寄り駅まで 30 分ほどで行くことができる。Stoke on Trent(最寄り駅)からは基本的にどこの都市に行くのも困らない。イギリスのご飯はおいしくないと言われるが、レストランに行けばどこでもおいしいご飯を食べることができる(高い)。サンドイッチは本当に美味しくないのに高い。大学内の GREGGS というお店のピザやパイは安く、大学生に大人気。毎日ジャンクフードは食べられないので、自炊ありきだと思う。基本的には大学内の coop で買い物をし、たまにアジアスーパーでカレーなど入手していた。Uber Eats も利用していた。

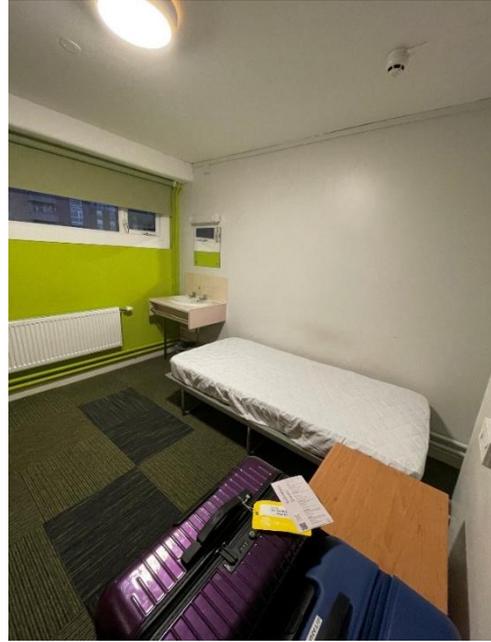
治安は悪くもないが、良くもない。夜は絶対に歩かないようにしていた。(薬物に関する問題に巻き込まれることもあると聞いていたので)

習慣、文化や気候の違い、言語の壁に悩んだこともあったが、とても楽しい期間を過ごすことができ、自分自身成長することができたので、勇気をもって留学にチャレンジしてほしい。

留学中の写真(5枚程度) ※写真のキャプションも入れること



キャンパス内



到着時の寮



イギリスパブ



ロンドン Big Ben



衛兵交代式